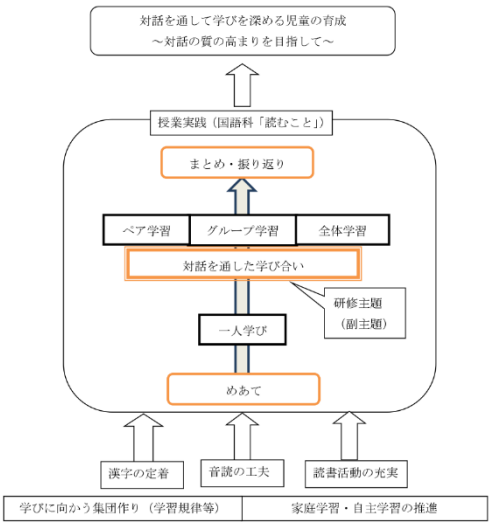
令和３年度　萩市立白水小学校　研究のあゆみ

１　研究主題

対話を通して学びを深める児童の育成（２年次） ～対話の質の高まりをめざして～

２　研究の経過と今年度の研修主題について

本校では、昨年度「対話を通して学びを深める児童の育成～国語科『読むこと』の学習を通して～」を研究主題とし、授業研究部会・基礎学力部会の２つの部会を組織し、学習力の向上を図ってきた。授業研究部会では、「自分の考えをもたせるための工夫」「対話場面での工夫」「思考ツールの活用」等に取り組んだ。その結果、自分の考えを伝えようとする意欲が高まったり、思考ツールを取り入れた授業が行われるようになったりした。また、縦割り班を活用した全校フリートークを継続して行ったことで、より楽しい表現活動の場が定着し、児童の感じのよい話し方・聞き方が身に付きつつある。基礎学力部会では、「学習規律の徹底」「家庭学習・自主学習の推進」「漢字の定着」「音読の工夫」「読書活動の充実」といった学習の土台を作る取り組みを行い、少しずつ効果が表れてきている。



一方で、授業の中で組織した対話が、児童対教師になってしまいがちなこと、対話が表面的なものになってしまうこと、対話を通した学び合いが確かな学力に結びついていないことなど、課題も見られた。

そこで、今年度は「対話を通して学びを深める児童の育成」を研究主題とし、「対話の質の高まりをめざして」を副主題に設定した。児童相互の交流の質を高め、対話を通した学び合いの中で確かな学力を身に付けていくための手法や視点を研修によって明らかにすることで、児童の資質能力を育成していきたい。また、引き続き課題となっている基礎学力の定着を図っていくことも視野にいれて研修を深めていくこととした。

３　研究の視点と本年度の取組

（１）児童相互の対話の質が高まる授業展開

○児童同士の対話が生まれる発問や教材などの提示の仕方の工夫

・導入時に児童の学習の見通しをもたせたり、児童の興味・関心を引き出したりするもの

・教師と児童、または児童同士の共通点やずれを焦点化した問題を生み出すもの

・児童の考えを明確にしたり、より妥当な考えをつくりだしたりしていくもの　等

○思考ツールの活用と板書の構造化

・思考ツールの効果的な活用

・児童の考えや発言を本時のねらいと関連付けながら構造的に板書していくことによって、児童が意見交換や議論するための思考のツールとして効果的に生かせるような板書計画を作成する。

（２）基礎学力の定着に向けた取組

〇各学年の学力の分析

〇学習規律の徹底

〇家庭学習・自主学習の推進

〇漢字・音読・読書活動の充実

〇フリートークの実施

【授業規律：聴く姿勢】

【フリートーク】

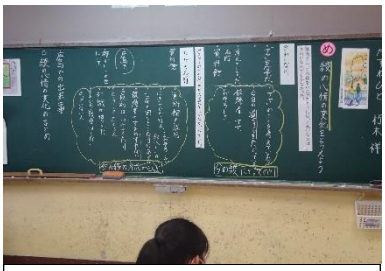
４　研究の経過

〇９月１５日(水)　第１回校内授業研究会

５年国語科「たずねびと」

指導助言者　やまぐち総合教育支援センター　教育支援部学校支援班

研究指導主事　住江　めぐみ　様



【板書の構造化】

【考えの補助となる学習の足跡】

指導助言において、対話とは、「何かを求めて、目的をもってする会話」であり、国語科においては、「言葉による見方・考え方を働かせている対話」が求められる。言葉による見方・考え方とは、児童が言葉を捉えたり、問い直したりして、言葉への自覚を高めることであり、子どもが言葉に着目し、言葉に自覚的になるように授業改善を図ることが重要であると説明された。そのためには、主張・根拠・理由付けができるような発問を行うことが求められる。今回の授業研究会では、子どもたちは文章の中の技法から主人公の心情の変化を捉え、対話の中でさらに深めることができた。また、切り返しの発問により、文には現れていない心情を考えることができた。これらの実践を通して、本校の求める対話の質を高めるためには、対話が生まれるような発問の工夫が必要であると改めて学ぶことができた。

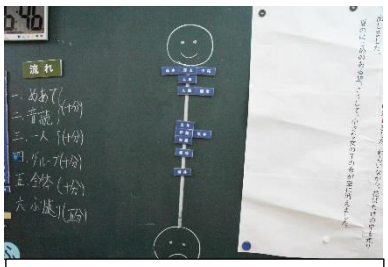
〇１１月１１日(木)　第２回校内授業研究会

３年国語科「ちいちゃんのかげおくり」

指導助言者　山口大学教育学部附属山口小学校

教諭　池永　亜由美　様

【考えの明確化への支援】



【見通しと考えの視覚化】

【グループ内での対話】

指導助言において、対話学習による学びが深まった姿とは、個の読みが他者の読みと関わることを通して、深化したり、広がったりすることであると説明された。今回、他者の読みと関わる準備段階として、「考え」「根拠」「理由」を書いたワークシートを書かせ、それを元に「ちいちゃん」の

心情の変化を話し合う手法を用いた。ワークシートを記入する際には、教師が「考え」を明確化させるために声がけを行った。また、発表の際には、発表者の方を向いて聴く姿勢を意識するとともに、疑問点や同意点があれば、すぐに発言できる体制を作った。また、対話学習を成功させるには、５つの条件①興味を引く教材、学習材、②教師の役割（発問）、③対話導入のタイミング、④対話中でのつまずきへの介入、⑤子どもたちの学びのふりかえりが必要であると指導された。また、本校でも対話を深めるために行っているフリートークを充実させるには、友人の話を聞くことを大切にする「学びの集団」づくりが大切である。そのためには、子どもの「話すこと・聴くこと」に目を向け、フリートークを価値づけていくとよいとのことであった。また、全員が参加できる話題として「ねえ聞いて・教えてあげる：情報発信型」「もしも〇〇だったら：仮定想像型」「あなたはどっち：意見対立型」「どうすればいいの？：悩み相談型」などを紹介された。

〇２月９日(水)　第３回校内授業研究会
　２年国語科「スーホの白い馬」
　指導助言者　萩市立椿西小学校
　　教頭　岡田　淳　様

【思考ツールへの記入】

【ツールを使ったペアでの対話】

【板書の工夫】

　指導助言では、めざす子ども像が学校教育目標とリンクしているので、授業での対話を通してめざす姿にどのように近づけていくかという視点で取り組むと、授業のめあてが明確になると教示された。国語の物語学習では、作品の主題を自分の言葉で表現できることがゴールであり、そこでは自分の目のつけどころをもとに、「この作品を自分はこのように読んだ」という子どもの捉えが求められる。手法として初発の感想で「何に気付き」「何がわかっていないのか」「どこに疑問をもっているか」など子どもたちの実態を把握することを学習の出発点とし、自分の言葉で表現できるというゴールをめざして、場（対話）を仕組でいく方法もあると紹介された。

　また、対話を多様な考えに触れる活動とするためには、児童は自分の目のつけどころをもとに、どのように作品を読んだのかを伝えなければならない。そのためには、前段階で「自分の考えを整理する。」「根拠を明確にして、伝える準備をする。」という取組が必要である。今回は思考ツール（ワークシート）を使って根拠等をまとめる手法を取り入れた。前時までに何度も同じパターンの思考ツールを使っているため、２年生でも当日戸惑うことなくまとめることができていた。今回のように思考の流れをパターン化する手法を指導しておくと子どもたちは自分たちで学習を進めることができるようになることが実感できた。これを機にパターン化できるカリキュラムについても研修を深めていきたい。この他にも本校の課題である語彙力、読解力、作文力の向上に効果が期待できる読書についての取組や AppleTV の効果的な活用法なども紹介され、今後の取組についての視野を広げることができた。

５　成果と課題

今年度、コロナ禍ではあったものの距離や時間に配慮しながら、３回の授業研究会及び一人一授業の中で対話活動を取り入れ、研究を進めることができた。その中で、子どもたちはお互いの意見を尊重しつつ対話を行うなど、学びを深めようと意識する姿が見られた。今回の研究を行う中で、本校の児童は、友達と話すことが好きで、自分の考えを伝えること、そして友達の話を聞くことができていることが確認できた。これらは、日常的に授業規律を指導していることによる成果であると考えている。学習指導の基盤には、安心して学ぶことができる学級づくりが大切であると改めて共有することができた。

また、友達の考えを自分の考えと関連させるなど対話の質が少しずつであるが高まってきたように感じる。これらは、対話の際に機会を捉えながら、支援や指導を行ってきた成果であると考えられる。

しかし、自分の考えを話して伝えることはできるものの、まとまった文章で表すことが苦手な児童が多数いる。これらの活動を向上するには、しっかりと考えをまとめる時間を確保したり、観点を明示したりしながら、書きやすくする支援が必要だと考える。また、根本的に基礎学力が身についていない児童もおり、語彙を増やしたり、良質の文章表現に触れたりしながら、対話とともに進めている基礎学力の向上への取組も急務である。

今年度の全国学力・学習状況調査の分析を行った結果、本校児童の課題として、①必要に応じた情報を見つけられない②目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができない。③条件に合わせて抜けがないように解答することができない。④同音異義語などの漢字が書けない。などの課題が見られた。これらは、今回の副主題である「対話の質を高める」ためにも克服すべき課題である。

これらの力を高めるためには、読み取る力と書く力が必要となる。読み取る力はこれまで同様、国語の授業を中心に漢字習得及び効果的な音読、文章の読解の中での向上を図りたい。また、書く力には、語彙力や文書構成力などがあるが、それらも読むことによって力が高まるものと考える。本校の児童は高学年になるほど、読書量が減少する傾向がみられる。よって、本への興味を高めるために、授業内容と関連する本の紹介や読み聞かせやブックトークを行ったりしたい。また、読書習慣や学校図書館の利用を高めるための取組も全校的に行い、子どもたちの読書量を増やし、課題解決への手がかりとしていきたい。